

# 竹取新聞

株式会社 カグヤ

東京都新宿区西新宿3-2-11

新宿三井ビルディング

2号館10階



第102版

理念と実践で  
絆を結びます

平素より弊社の商品をご愛顧頂きましてありがとうございます。この新聞は、「子ども第一義」の理念のもとに活動しているカグヤクルーの日々の出来事・内省を発信することで、皆様の保育に少しでもお役に立てればと始めたものです。記事中にはそのまま実践を表現することを優先し、乱筆乱文で恐れ入りますが、何卒ご容赦くださいますようお願いいたします。

## 見守る生き方

沖繩の名護市にある、やまびこ保育園様で、6年間の育ちを一冊にまとめた『ポートフォリオ』を見せて頂きました。

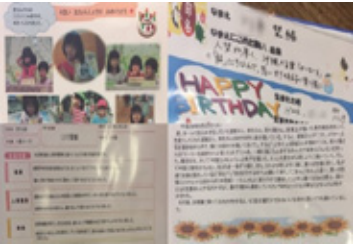
最初のページは名前と名前にかかれた保護者からのページ。その後は先生たちが3か月ごとにその子を振り返り、一枚にまとめられた写真のページがあります。また、その子が作った作品や絵なども綴じられています。そして、一年の間にその子にとって特徴的だったエピソードが保育日誌からピックアップされて纏められていたり、年度の最後にはミマモリングソフトの「保育カルテ」の機能を使い、その子の育ちを5領域から可視化したものが綴じられています。

そんな豊かな一年間の記録は、担任の先生だけではなく、保護者やフリーの先生、そして子ども本人の作品も含め、

皆が関わり作られていくそうです。

「みんなの負担になりすぎないように、そして一人だけの負担になりすぎないように」そこを大切にしたいからこそ、普段の日誌や発達記録や作品を活かしているということ。皆で協力し合い、6年間綴られていく豊かさは、関わる人々にとっても豊かなものになっていくように感じます。

私たちも大切なもののために、協力をしていく豊かさを大事にしていきたいと思えます。



園内の様々な書類や作品を使って、子どもの育ちが専門的に、そして豊かに纏められていました。

## 寄り添いから

神奈川県の木月保育園様は4月に新園を開設される予定です。気になるのは保育士不足の問題ですが、園長の小林先生にお話を伺うと、「おかげさまで職員の人数は足りているんですよ」と仰います。

工夫していることをお聞きしてみると「最近では僕が案内しても、なかなか若い子には伝わらないような気がして…。そこで2年目の保育士に園や保育の案内をお願いしたら、とてもいい雰囲気話してくれました。『私は2年前にこんなことが不安だったんだけど、そんな不安はない?』と、当時の自分の心情を思い出しながら、相手の気持ちに寄り添って質問してくれていたんです。」

お話をお聴きしていると、まるで異年齢の関わりに通じるものを感じます。先生が話すよりも、少し上のお兄ちゃん

お姉ちゃんとの一言の方が伝わりやすい。それは、その子の気持ちに寄り添いやすいからなのかもしれません。「だから園に見学に来てもらうまでが僕の役割、案内は若い子にしてもらい、最後の決め手はうちの最ベテラン・人情派の副園長です。」と笑いながら仰る小林先生からは、園全体で持ち味を活かして新しい人を迎え入れようとする姿勢、そして何よりそれが学生さんにとっての安心の関わりになっていることを感じました。

私たちもお互いを活かし合いながら、正しさや詳しさよりも前にある寄り添いを大事にしていきたいと思えます。

日頃の保育がそのまま採用にもあらわれているかのようでした。



日頃の保育がそのまま採用にもあらわれているかのようでした。

## 広がる見守り

ギンギツリ主催の「リーダー研修2017」を東京の竹橋で開催しました。

保育士を対象とした「保育環境セミナー」では、2時間と限られた時間の中で行われる『Q&A』のコーナーがあり、各園のリーダーの先生方を対象にしたリーダー研修では、各園の先生同士が自分たちでもその悩みを解決できるようにとディスカッションの時間が用意されています。

セミナーに参加した先生方から寄せられた質問では、「①若い先生やパートの先生に見守る保育をどう伝えるか」「②若い先生たちから意見が出てこないのだが、どうすればいいか」「③給食の時間に戻ってこない子をどう見守り・どう声掛けをするか」等が、ギンギツリ代表の藤森先生に寄せられました。

今年度の保育環境セミナー

でも、上記のような質問が寄せられました。藤森先生はリーダーに寄り添った考え方を示されていました。リーダーの先生方を見守ることで、多くの園で見守りの輪が広がることを感じます。リーダーの先生方が、今度は職員を見守り、現場の先生方が子どもたちを見守っていく、そんな意味もこのセミナーにはあるのだと、研修を通して改めて感じました。

上記3点の質問に対する考え方等の詳しい内容は、弊社から配信しているメールマガジンをご参照ください。



【メールマガジンのQRコード】  
リーダー研修の基調講演の講演録や「Q&A」の内容をご覧頂くことが出来ます。

# CCN Caguya Company News カグヤニュース

※カグヤでは、クルー同士別々の場所においても、互いの気持ちや様子が共有できるよう、「カグヤニュース」という社内報を毎日メール配信しています。ここでは、その中から一部を抜粋して、日々の実践をご紹介します。



自分たちで収穫した柿。皆でせっせと皮をむきました！



古民家「聴福庵」につるされた柿は、風情があります。

干し柿といえば、子どもの頃に祖母の家の軒下につるされていたのを思い出しますが、実際に自分でつくるのは人生で初めての体験。  
どうやるのかもよく分からない中、周りの人が「へたはとるんだよ」「皮は厚めにむいた方がいいよ」「枝は丁字型に切つてね」など教えてくれ、皆、経験して

## 初めての干し柿



皆で話し合えば合うほどに、サイトはどんどん素敵に…！



皆のアイデアがいよいよ形になって気持ちも高まります。

「ひとり」より「一緒」  
12月カグヤのホームページがリニューアルしました。スマホに対応すべく始まったリニューアルでした。見た目やシステムのなところはデザイナーさんやWEBセンター、それとWEBの専門知識を持つクルーが主軸となってます。めっていたのですが、内容をどうするか考えたときサイトの中身を構成しているのはクルー全員のブログだということになりました。何度か何度もミーティングを重ね、色々なアイデアを出し合

いたり、知っていることに驚きました。そして今回体験した分は今度自分も同じく誰かに教えることができることを思うと、改めて伝承において「一緒に体験すること」の大きさを感じました。  
古来の日本人たちが渋柿を美味しく食べるために知恵をこぼして編み出した干し柿。今は暮らしも随分変化し、干し柿など昔はとも身近だったものが失われつつありますが、子ども達へと伝承していくためにも、知識として頭に入れるだけでなく、こんな風に日本らしい暮らしを自ら体験し、ゆくゆくは子どもたちとも一緒につくってみたいなあと感じています。

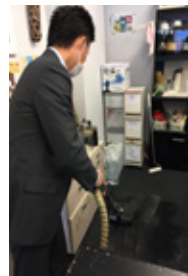
いながらサイト内のコンテンツを決めました。そしてサイト内のカグヤの実践を紹介するコメントも全員で分け合って書くことになりました。各々の個性溢れるコメントとなりました。見る側にとっては一貫性のない文章に違和感を覚えるかも知れませんが、これもカグヤらしさのひとつ。それも含めて楽しんでいただけただけ嬉しそうです。  
全員で物事をすすめるのは時間も手間もかかります。正直、とても面倒です。でもその面倒さと引き換えにしても一緒に取り組むことには意味があります。互いの気持ちを共有する楽しさや全員の想いが形になった喜びは何にも代えがたいものがあるのです。  
ひとりよりみんな一緒に。このカグヤの「楽しみ力」で、皆さまと一緒に楽しんでもらえる一年にしたいと思います。

## 一期一会庵

### 「暮らしの実践」

ひよんなことから  
ある日キッチンスペースに響き渡るクルーの悲鳴：。何事かと見に行くと、皆のためにコーヒを淹れようとした際に、瓶が落ちて割れてしまったようです。すぐに社内にはいた他のクルーが駆けつけ、瓶の破片を片付けるため掃除機をかけ始めますが、「ついでにちよっと早めの年末大掃除にしちゃおうか！」と、いきなりの大掃除開始です！掃除機がけはキッチンスペースから全フロアに広がり、煩雑になっていた保存容器も整理し、事故を減らすように工夫をし

あけましておめでとうございます。本年もよろしくお祈りします。  
御陰様をもちまして私たちカグヤは、昨年もしき方と働き方の一致に取り組んだ充実した一年になりました。仕事の中に暮らしがあるのではなく、暮らしの中に仕事があるというテーマに「暮らし」を優先して日常に取り入れられました。具体的にはこの竹取新聞でもよく紹介されていますが、古来からの年中行事の室礼の実践、また日本民家の誕生や伝統文化の伝承などです。当たり前すぎて忘れがちですが、この「暮らし」こそ私たち人間生活の日常の営みの基本であり、私たちの生き甲斐と仕合せを与えてくれる源泉です。  
私たちは、都会に住んで経済優先仕事中心の日常ばかりを過ごしていると次第に忙しくなり心が冴えていきストレスを抱え込むことが増えていきます。効率優先、速度重視



水分も吸える掃除機で今年の汚れは今年のうちに綺麗にしちゃいます♪

てみました。ひよんなことから始まった大掃除ですが、おかげで社内も綺麗になり、「年末にバタバタしながらするより良かったよね。」と逆に安心したほど。この事件がなければ忙しさに流されて大掃除をするタイミングを逃していたかもしれない。まさに「災い転じて福となす」な出来事となりました。

の生活が続けばそのうちやりっぱなしの仕事が増えて生き方も働き方もそのようになってしまいます。ふり返ることで味わる豊かさも、追い立てられるように過ごしていたらその気づきの機会をも失ってしまいます。  
子どもたちにはどのような未来を譲りたいか、どのような生き方を遺したいか、私たちはこのことを真剣に考え、働き方改革を実行中です。

今年には多くのお客様に本社や古民家「聴福庵」に来ていただき私たちの暮らしの実践を紹介し、園でも多くのお客様と一緒に「暮らし」に取り組んでいきたいと思っております。皆様と子どもたちにとって今年一年が、心穏やかな日常がさらに充実するよう、引き続き私たちが理念である「子どもの憧れる生き方と働き方」を実践していききたいと思っております。

## 編集後記

あけましておめでとうございます。今年も皆様への感謝を忘れず発信を続けていきます。本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

カグヤは「子ども第一義」の理念を実践し、お客様の発展と自立に貢献していきます。



本社  
〒160-0023 東京都新宿区西新宿3-2-11  
新宿三井ビルディング2号館10階  
tel.03-5909-7155  
fax.03-5909-7199

カグヤウェブセンター  
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1-17  
東京堂神保町第3ビルディング8階  
tel.03-3518-6217  
fax.03-3518-6218

☎フリーダイヤル 0120-917-389  
URL: <http://www.caguya.co.jp>  
E-mail: [support@caguya.co.jp](mailto:support@caguya.co.jp)  
受付時間 月～金 9:00～18:00  
(土・日曜祝祭日を除く)